

市長と語る～まちづくり懇談会～ 明智

日時：令和元年 6 月 14 日（金）午後 7 時～8 時 50 分

場所：明智文化センター

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 本日は、令和元年度の地域懇談会第 1 回目であり、緊張している。まだペースが掴めていないので、エンジンも暖まっていないがよろしくをお願いします。

いくつかお礼を申し上げる。杉山会長はじめ地域自治区の皆様には設営、段取りをしていただきありがとうございます。昨年までは市長が一人でしゃべっていると言われたので、今年は 20、30 分にします。新しいものを少しだけ紹介する。その先は地域自治区の方々を含め、御参加の方とディスカッションする場にしたい。振興事務所長、会長と議論いただいてこういう形にした。

前回から半年しか経っていないのであまり変化がない。が、良いニュースがある。今日の議会でも報告したが、笠置峡でボート・カヌーのオリンピックの事前キャンプ地の活動をしていたら、一昨日、ポーランドのナショナルカヌーチームが恵那に来たい、9 月には契約したいということだ。ポーランドはカヌーでは世界でも 3、4 本の指に入る。メダルを獲っていただけるという話が出ている。

それから、WRC、世界ラリー選手権が、パリで今日のパリ時間の夕方には発表される。恵那では明け方 3 時頃になる。必ず日本が乗ると思っている。日本が乗れば明智、山岡、岩村の恵南林道を走ることになる。それも大きな楽しみになると思う。僕も車好きなのでいろいろ言っているが、世界で 10 億人以上がテレビで観戦する。年間動員数は 400 万人と言われ、日本だけでも数十万人が来る。来年 1 回ではなく、最新情報では、最低 3 年、契約更新すれば、そこからまた 4 年、5 年と延びていく。多くのお客様に来ていただき、テレビに映るチャンスでもあるので、ブランド力を高める、世界に名を売るには良いチャンスだ。

画面に従い説明する。この画像は、グーグル検索で恵那市というキーワードで画像を検索した場合の頭から 10 枚のものだ。世界中の人が見ている画像で、一番よく見られている画像だと言える。大正村、岩村、恵那峡もある。恵那市のイメージが何となくつかめると思う。

「はたらく」「たべる」「くらす」、もう一つ昨年から言われているので「まなぶ」の 4 つのテーマで簡単に事業を紹介する。

「はたらく」。継続で、西工業団地の事業をしている。道路の拡幅工事がスタートして

いる。これから本体の造成にも入る。

産業振興会議は、私が市長になってすぐにスタートして、2年経過した。今日、令和元年度第1回の会議を先ほどやってきた。いろいろなアイデア出しをして、それを分類して、商業、観光、工業、林業、農業といった業態で、いろいろなテーマで意見を出し合っている。具体化したものは、女性の再就職応援セミナー、既に開催している。女性が再就職できる手助けをしたり、メディアを活用するセミナーでは、テレビ、ラジオ、SNSを使うとどうできるかをやっている。いろいろな場面でこんなご案内もするので、特に事業をやっている人は活用してほしい。

「たべる」。ずっとプロの料理人による料理教室をスタートしている。毎年バージョンアップしている。去年は中学校、親子向けということでやった。夏休みイベントだった。中学校でもやっている。明智中学校でもやった。写真は西中学校の料理教室。小さいうちからプロによるおいしい料理を食べる、減塩、良い物を食べることが健康にもつながるし地域の味を覚えることにもつながる。今年はこれに加えて給食で地元食材を使う取り組みもスタートする。

耕作放棄地を何とか解消したいと農高にお願いしたら、農高で、耕作放棄地にエゴマを作ろうということになった。エゴマが収穫できたので、耕作放棄地で作られたエゴマを使った新商品として味噌、エゴマ油、ほかにもパンなどいろいろ作ってくれている。農高の生徒たちはこれを東京で発表したら農林水産大臣の賞をもらった。大変注目されている。これは「食べる」と農業につながる。

「くらす」。国際的なイベントよりも、今はリニアに絡めて大型プロジェクトが動いている。瑞浪恵那道路。瑞浪と恵那の間12.5km。全体で400億円の事業でリニア開通までに道路ができる。既に事業認可が下りて、リニア開通までの8年ぐらいの間にすべてが開通する。北側、恵那の飯地の向こうに八百津町があり、木曾川の丸山ダムの再生事業が動いている。このわずか47m後ろに新丸山ダムという大きなダムを20mかさ上げして造る。日本でも非常に珍しいダム再生プロジェクトで、総工費は2000億円。ダムのかさ上げに伴い道路が付け替えられ、飯地には418号の大変良い道路ができつつある。恵那市側は既に道路工事がスタートしている。これにより八百津の杉原千畝資料館、可児、美濃加茂とリニアの駅が結ばれるようになる。恵那市としては結節点としての機能が非常に高まる。

リニア中央新幹線は、全体で名古屋一品川間で5兆5千億円、岐阜県内だけでもおそらく1兆円の大型プロジェクトが既に動いている。これからどんどん恵那のまちも含めて工事がスタートする。

これ以外にも、矢作ダムの再生がスタートしている。今はおそらく設計検討段階で、矢作ダムの排出能力が1300 m³/秒しかないのを、1200 m³のバイパスを造る事業が既に動いている。事業費400億円。隣の中津川リニア駅の近くでは濃飛横断自動車道、約300億円

の事業が動いている。ほとんどの事業がここ 10 年ぐらいですべて完了、もしくは完了に近づいてくる。日本の中でもこれだけの大規模なプロジェクトが同時に動いている場所はそれほど多くはない。10 年ぐらいの間はこんなことですごく土木の仕事が大きい、その先まちは大きく変わると想像できる。

市役所の南側、恵那の警察署のところの区画整理。概ね店の名前が出てきた。明智から来ると国道 257 号線をずっと恵那駅に向かうと、19 号があり、カーマ・ホームセンターができ、バロー、あかのれん、V ドラッグ、三洋堂、ユニクロ、西松屋、ますきを含めたいくつかの飲食店、JINS の眼鏡屋さん、スターバックスができる。そのほかにも、川側、64 の住宅が建つ。既に 4、5 軒建ち始めている。大きな街がまた一つ生まれようとしている。この秋にはおそらくオープンする。

そんな中、恵那市は、住宅が少し少ないという大きな課題を抱えている。家を建てたくてもなかなか建たないということもあったので、見直した内容がある。

1 つ目、農振に入っている田んぼを除外するための手続きを緩和。第 1 種、いわゆる圃場整備されたところ以外の通常の農地なら、一般住宅は建つ。アパートも建てられる。そう変更した。今年の 1 月から。

2 つ目、水道の分担金が非常に高かった。旧の各町の分担金をそのまま引きずっており統一されていなかった。これも変更し、20 万、30 万だったものが、一番ベーシックな 13 mm なら 4 万 3 千円、他市よりも安くしてある。20 mm でも 11 万 8 千円で他市並み。水道が高くて引けないというのを解消できたつもりだ。今年の 4 月から変更した。

また、6 月議会に上程している議案で、住宅団地を開発するための支援もやっており、道路、上下水の支援もやる。ただし、これは大井、長島を含めた中心部がわりと多いので、これに合わせて笠周、恵南各町は、空き家改修のための助成金を 5 割増しで、150 万までかさ上げをして、全体に住宅の流動化、もしくはそれをうまく使っていただける仕組みに変更していく。

「まなぶ」についてもいくつか大きな話がある。おさしま二葉こども園はこの 4 月にオープンした。全体事業費が 12 億かかり、240 人定員のうち、今は 170 人が通っている。0 歳児から受け入れ可能。子どもたちが元気に暮らしている。

このほか、昨年夏大変暑かったので、小学校、中学校、こども園にエアコンを入れる。日本中の自治体が取り組み、恵那市もやった。全体事業費 9 億。昨年からの事業で、既にやっている。こども園はすべて完了した。小学校、中学校は今工事に入っている。2 学期が始まる夏休み中にはすべて完備する。普通教室、理科室、音楽室はすべて入る。5 月に大変暑かったのが心配したが、6 月になり気候が落ち着き、このままあまり暑くならず夏休みまで行ってくれば、秋以降、子どもたちはエアコンの中で勉強できる。

人口全体では、平成 30 年、外国人を含めて 5 万 630 人。世帯数は 1 万 9658。すぐに人

口が減少するのを止めるわけにはいかないが、できる限りいろいろな手を打っていきたい。生まれる子どもの数も、ずいぶん減っているとここ 2 年は説明してきたが、平成 28 年は 297 人、29 年は 291 人、30 年は 305 人で、若干持ち直した。ただし、移住して来た子も入れると、平成 27 年は 330 人生まれ、今ここにいるのは 346 人で 16 人移住している。それに比べると、平成 30 年には 305 人生まれたが、今は 5 人転出し、300 人いる。このあたりは、転勤などいろいろな事情があるので一概には言えないが、こういうことも含めて取り組んでいる。

今年のテーマ。関係人口。今までは観光を含めて交流人口、定住人口と言っていたが、ここに来て政府も関係人口というのをもきちんと定義付けして、関係人口についてももう少し考えようという流れになってきた。ここを頭に入れて考えることで上手くいくと思う。提案も含めて考え方を説明する。

交流人口は観光人口だ。観光よりも少し密接で濃密で、定住までは至らないというのが関係人口と定義付けされている。人数的には、交流人口、いわゆる観光で訪れる方が圧倒的に多いが、その中の何%かは順にステップアップして、恵那市のファンになって特産品を買ったり、毎年のようにふるさと納税で寄付したり、いつも毎週どこかに通ってくるとか、親がいるので毎月戻って来るとか。こういう関係性になると、だんだん濃密な関係になる。それはそのまま定住につながる。こうしたいろいろな取り組みをしたらどうだというのが一つの考え方だ。

もう一つは、これだけインターネットや交通が発達した中で物理的な恵那市という区域だけで区切って良いのか。もっと流動的に恵那市のファンを世界中に作って、そういうところからふるさと納税のような形で寄付していただければ、市の運営はそれをもってできるのではないかという考え方。

2 つを含めて関係人口を考えてみたらということだ。

交流人口と定住人口。交流人口は、観光地整備、観光客を少しでも増やすという考え。岩村町も電線地中化をした。昨年は「半分、青い。」で多くのお客さんに来ていただいた。これも整備したおかげでロケ地として選ばれたのだろうし、ロマン亭も整備した。多くの人に来ていただきファンができています。また、恵那峡もいよいよ最終年になったが、5 年かかって再整備を行い、大井ダム百周年に向けて、最終の仕上げをしている。交流人口を増やすためのインフラ整備を恵那市は結構一生懸命やっている。おかげさまで 415 万人が平成 30 年度に恵那市に来た。

定住。今年 1 月に発刊された『田舎暮らしの本』の中では、住みたい田舎ベストランキングで東海エリアの第 2 位になった。第 1 位は静岡。第 3 位は中津川市。第 4 位は豊田市。選ばれやすい、もしくは注目はされている。これは、一つは交流人口、観光地としてのブランド力が上がったこともあるだろうし、実際に来てここが気に入ったということもある

と思う。平成 30 年度に移住したのは 232 人。ただ、これは、まるつきり縁もゆかりもない方が 232 人来たわけではなく、息子や娘が瑞浪のアパートにいたが恵那に移ってきたという人もあるので、単純にすべて都会からの移住者というわけではない。移住するのは非常にハードルが高い。移住だけを狙うのは難しいので、関係人口を増やすことで将来的な移住の可能性を広げるといった考え方もあると思う。

関係人口には 3 つのパターンがある。関わりのある人。これは阿木川ダムの写真。僕と同級生で、僕が中学生のときに阿木川ダムの建設工事があったとき、建設技術者の息子が同級生で恵那に住んでいた。その子は中学校 3 年、高校 3 年の 6 年間だけ恵那市で過ごし、大学へ行って、お父さんは水資源開発公団で転勤して恵那には縁もゆかりもない。ただ、同窓会をすると、俺のルーツは恵那市だと言う。彼が結婚したのは、山岡の女性で、今は東京に住んでいるが定年したら恵那に帰ると言っている。過去に恵那に住んだという関わりがあり、それが恵那に根が生えているということにつながる。

分かりやすい例はふるさとえな応援寄附金。いわゆるふるさと納税。恵那市のファンであり恵那市のものを応援したい、もしくは恵那市でできているものを食べたい、欲しいということで、平成 30 年度 915 件、1700 万の寄附をしていただいた。これも一つのファンで、関係人口の一つだ。

ふるさとワーキングホリデー。都会の人が休日、もしくは働きながら暮らす。昨年 17 件あった。これもファンづくりの一つだ。

もう一つ大事な数字だ。関係人口の中でルーツのある人、恵那市で生まれ育って恵那市にルーツがあるが恵那市じゃないところに行った人。調べてみると、ハローワークが出した平成 31 年、今年の春の高校卒業生の状況。市内 3 つ、特別支援を入れて 4 つの高校で 448 人が卒業した。そのうち就職したのは 131 人、残り 317 人は進学。131 人の中で恵那市内に就職したのは 41 人。卒業生の約 1 割。県内の恵那市外が 56 人、県外が 34 人。中津川市では 620 人の卒業生のうち 130 人が中津川市内に就職。これを足すと恵那・中津川では 1068 人がこの 3 月に卒業し、400 人が就職、そのうち 170 人がそれぞれの市内に就職した。おそらく恵那と中津川を足すと 292 人が就職しているので、3 割が恵那市に住みながら中津川に就職、もしくは中津川に住みながら恵那に就職したので、3 割は地元にいる。問題は、残りの 7 割。家を出て行き、大学はほとんどが出ていく。こういう人いかに恵那に戻ってきてもらうかが大きなテーマだ。ハローワークのデータでは、高校を卒業した人は 3 年以内に離職して再就職するのが 3 割。恵那でもっと就職できる場所があるとか、恵那から通えるところがあるということをもっと訴求することで恵那の人口減少が食い止められる可能性がある。

関係人口の事例で 2 つ紹介する。中野方の坂折棚田、オーナー制度でオーナーが稲刈り、田植え、草取りで何回か通う。こういう関係性を保つことで将来的にはここを気に入って

住んでいただきたい。奥矢作森林塾。古民家のリフォームは、ここに住む前提で、串原に通いながらいろいろな体験をして人間関係を構築してそこで定住につなげる。

明智町について。人口は平成 30 年、5275 人、世帯数 2011。世帯は減り気味だ。生まれる子は昨年 13 人で、1 人は転入したので子どもは 14 人。

「麒麟がくる」。ドラマ館をつくりたいというのが岐阜県で 3 カ所、京都、滋賀県それぞれあり、全体で 6 つの市町が手を挙げている。岐阜県の中では推進協議会に参加しているのは 8 つの市町で、手を組んであちこち見て回れば良いということで、知事を筆頭にしてお互いの団体が集まって動いている。中でも一番東が恵那市で、明智町を中心にして恵那市としても「麒麟がくる」の実行委員会を設立して観光協会、経済団体を含め、事業に着手している。詳細は後ほど説明があると思う。

意見交換

・テーマ「賑わいと活気のあるまちを目指して」

■司会 テーマは地域協議会、自治連合会の役員で決定した。このテーマ内容は、明智の町がにぎやかになり、明智の人たちも元気になれることを目的として決めた。

(1) 大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した明智光秀ゆかりの地PR関連事業について

■司会 観光協会と大正村から事業の説明、意見の発言をいただく。

■恵那市観光協会明智支部副支部長 来年 1 月から明智光秀を主人公とする「麒麟がくる」が放映されることは皆さん御存じだと思う。恵那市では大河ドラマ「麒麟がくる」実行委員会が 5 月頃発足された。また、この地元では、観光協会のメンバー、大正村、各団体の代表も入って、実行委員会の作業部会ということで活動している。大河ドラマ放映決定を機に、全国に向けて明智光秀ゆかりの地をぜひアピールしていきたいと考えている。

賑わいと活気のあるまちを目指してということで、大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した明智光秀ゆかりの地アピール事業ということでお話しする。

恵那市では、「麒麟がくる」実行委員会の主な事業として、平成 31 年 3 月に明知鉄道、明智光秀ラッピング列車の出発式をした。

4 月に静岡大学の小和田先生の講演会をかえでホールで、「明智光秀の謎に迫る」という題目で行なっている。5 月には光秀まつり、チャンバラ合戦、山城トークショーの開催。これは明智で元々やっている光秀まつりに合わせて、今回はバージョンアップして、実行委員会が主催する事業として同時進行で行なっている。明智町内の各団体として、明智観光協会の主な事業として、平成 30 年 10 月、「明智光秀」東美濃物語講演会の開催。籠橋一貴さんに明智光秀東美濃物語という本を書いていただいた。これを先駆けとして、明智観光協会としてもいろいろな事業を進めてきた。平成 30 年 11 月に、この時点では準備委

員会ということだったが、光秀ゆかりの地めぐりということで、現場を訪れ勉強会を行った。平成 31 年 3 月には千畳敷でお誕生日会を行った。雨にもかかわらずたくさんの人が参加してくれた。

既に実行委員会の反省会をして、今回は従来行っていた明智光秀まつりと、今回恵那市の実行委員会が催したチャンバラやいろいろが、ロマン亭や大正村駐車場ということで、この辺のお互いの連携がなかった。来年さらに催しも増えてくるので、もう少し連携を取りながら行ったら良いという反省もあったので、来年はその辺も踏まえて盛大に行っていきたい。

また、今後、観光協会ではぎおん祭、町民花火大会。ぎおん祭には子どもさんや町内の人にあんどんを書いてもらう。テーマとして明智光秀、「麒麟がくる」を題材として書いてもらい、花火大会でそれを披露したい。たくさんの人に書いてもらうようピーアールしたい。町民花火大会は今回記念大会なので、盛大にやりたい。小坂市長、よろしく願います。

さらに賑わいと活気のある町にしていきたい。お互いに大正村、商工会と連携して明智町を全国にピーアールしていきたい。このチャンスを生かし、町民にも関心を持って参加してもらい進めていきたい。協力してほしい。

明智光秀の生誕の地の明智を全国に発信するためにさらなる観光ピーアール事業を推進していきたい。ドラマ館の話もあったが、この辺の事業を充実していただき、盛大にたくさんの人に来てもらうようお願いしたい。

■日本大正村 普段大正村の観光案内所にいる。直に観光客とのかかわり、電話での対応をしている。「麒麟がくる」実行委員会作業部会にも属している。その立場から意見を述べる。

大正村では「麒麟がくる」放映決定をきっかけに、明智光秀生誕の地である大正村も併せてさらに観光客の拡大を期待している。大正村の観光客数は 29 年度に比べ 30 年度は徐々に増加し、さらに大正村の地に明智光秀ゆかりの地の観光ガイドの問い合わせやガイドの要望も徐々に増えている。しかし、光秀ゆかりの地のガイドが可能な人はまだ数名で、対応は困難だ。大手観光バスの会社のバスツアーに観光ガイドを取り入れれば大正村、明智町の観光客増大と町内の関連商品の販売拡大が期待できる。観光ガイドは今後観光協会や市で協力いただきガイドのできる人材の確保を進めなければならない。今後恵南地区文化遺産活用事業により観光ガイドになるための勉強会が開催される。ぜひ観光ガイドについても皆様の協力をお願いする。勉強会のチラシが会場受付にあるので持ち帰っていただきたい。明智の町民の皆さんも明智光秀ゆかりの地と大正村についても勉強していただくことが町を元気にすることにつながると思う。

明智は少子高齢化が進んでいるが、かつてにぎわった大正村のように町の賑わいと活気

を取り戻すため、町内の皆さんがいろいろな活動に参加して、各団体も町全体で協力し地域一丸となって明智を元気に盛り上げていけたら素晴らしい。また、観光客から光秀ゆかりの地や白鷹城などの各所へ行く方法が分からないという意見が多数届いている。現地への標識や案内板が老朽化していたり、現地に案内がない場所もあり、案内のための標識や看板も整備されると聞いているので、着実に着工されることを願う。

■振興事務所長 大河ドラマ「麒麟がくる」を活用した市の事業、「麒麟がくる」実行委員会の事業について少し補足する。

明知鉄道ラッピング列車。これは明智光秀のラッピングで、「麒麟がくる」というイメージのもので、1車両、3月30日に出発式を行い、現在毎日恵那明智間を往復している。内装も「麒麟がくる」をイメージしている。ぜひ乗車してほしい。これに乗ればラッキーだ。

説明の看板、案内板も不足している、分かりにくいという意見が観光客からも多くある。光秀のゆかりの地、白鷹城跡も、誘導看板、現場での案内板も、今年度以降整備をしていく予定だ。大正村のトイレも和式で、洋式に今後整備していく。

大河ドラマ館。現在は大正ロマン館で行う予定だ。NHKと市の担当課が調整している。大河ドラマ展はこじんまりとした方で、大きいのは大河ドラマ館で、市と県と協力して事業費を検討して、大河ドラマ館としてやっていこうということでほぼ調整した。ロマン館を中心に、NHKの大河ドラマに関する展示も行っていく。2020年1月からオープンする予定だ。これが完成すると大手観光会社、個人でも多くの観光客が訪れ、大正村、明智光秀ゆかりの地を楽しんでいただけ、明智の地にも経済効果があると期待する。

グルメ商品の開発。既にロマン亭でいろいろ開発してくれている。いろいろなアイデアを凝らしている。町内の企業、事業者、商店とも協力して、光秀関係のグルメ商品も来年に向けて検討していく。

市、実行委員会、地元の作業部会の皆さんと一緒に、明智光秀ゆかりの地を全国にアピールして団結していく。皆様にも光秀について勉強していただき興味を持っていただき協力してほしい。

日本大正村から話があった観光ガイドになるための勉強会のチラシを持ち帰ってほしい。

■司会 ありがとうございます。ただいまの説明・意見について、皆様からのご意見をいただきたいと思います。明智光秀ゆかりの地をPRし、各団体、町全体がひとつになり、賑やかで活気のあるまちにするためどうしたら良いかなどのご意見をお願いいたします。

■市民1 大正村が立ち上がったときは施設も何もないのにピーアールが先行してどんどんお客さんが来て、こんな何もないところに来てもらって申し訳ない、お茶でも一杯という、おもてなしの心を売ろうということで多分スタートした。ところが施設が段々整うと、反比例してそういった心が失われてきたように思う。私はバラ園で5年ほど前から作業し

ている。下から観光客が上ってきて話をする。「どちらからみえましたか、滞在時間はどれぐらいですか」と。「それぐらいならここここを見たら良いですよ」という話をする。観光客と会話することが一番喜ばれるような気がする。

まだバラ園やボランティア作業にかかわってくれる人を集めるのに苦労しているが、少しずつ見るに見かねて協力してくれる人が増えている。まちが元気になるためには人の絶対数。批評や意見を言う人はたくさんいるがそれより草の 1 本も抜いてくれる人が欲しい。これは実際にそういうことをやってみないと分からない。汗を出して 1 時間でも 30 分でもかかわってくれる人をどうやって増やすかが悩みの種だ。誘い方、情報発信が下手なところがある気がする。その辺は皆さんと相談しながら町民に働きかけたい。

アメリカのある大学の先生の研究で、週に何時間かボランティア作業をすると免疫機能が上がるという。バラ園でいろいろな人と一緒に作業して、2 時間ぐらい作業してお茶を飲んで雑談する、人と人とのふれあいが、作業は苦しいが楽しいという実感がある。参加してほしい。

飛騨古川に 10 年ほど前にまちづくりの視察に行ったとき、そこのリーダーに、飛騨古川が成功したポイントを聞くと、行政の協力があつたからと言った。お金をいただくことと、企画、アイデアを出していただくということがあると思う。それに増して、明智町の市の職員が大勢いるが、汗を出すという、草の一本も抜いてくれるというそういう活動に加わっていただけるように、町民だけでなく行政の皆さんとタイアップして協力しながらやっていただくことが大事だと思うので御配慮いただきたい。

■市民 2 辛口で言う。職務に就いている人は驕りが多いと思う。目に余ることが批判を受ける。河川敷で草を刈っていてもあいさつもしない、ねぎらいの言葉もなく通っていく。みんな、「あの人たちは何様だと思っているんだ」という声を聞く。朝出会ったら、「おはようございます。今日は暑いのか、寒いのか」それが明智の活性化の第一歩だと思う。それを一言言いたくて今日来た。

■市民 3 観光協会の理事としてお願いがある。先ほど副支部長から説明があつたと思うが、今年は光秀まつりに通常の 200 万円以上を出していただき盛り上げていただいた。ありがとうございました。私が思うのはその後で、通常の 200 万でやってくださいとなると廃ってしまう感じがする。しばらくは恵那市の祭りとして光秀まつりを応援してほしい。

■市民 4 要望ではないが、見ていてもったいないと思うことがある。市長が 31 年度の市政方針に 7 項目挙げて、3 番目と 7 番目で、まちの魅力を高める、まちを元気にするとある。今その関連したものが出てきた。最近、「麒麟がくる」に関連して、いつももったいないと思うのは、ポスター。なぜ恵那市だけなのか。明智町の人間だから言うだろうと思われがちだからあえて言うが、なぜ恵那市だけなのか。なぜ恵那市明智町とポスターに入れないのか。小さな文字で良い。「半分、青い。」で岩村町が活性化した。なぜ恵那市

岩村町と入れないのか。ポスターを作成する人が、恵那市の作成なら、単に抜かしたのか。

昨年、合併した各地区に資源がたくさんあるから、各地区でそれを活性化して、その足し算が恵那市全体の活性化になるのではないか。旧恵那市の、合併したところの同化だと、いろいろなところに支障があるのではないか。そういう質問をした。それに通じるものがあると思う。今からまだ半年、放映まであるので、もし観点がなるほどそうだとということなら、恵那市明智町。明智に来ていただければ、明知鉄道の運賃にも貢献できる。いろいろな活用ができる。もし「恵那市」で良いということなら、あまりにも思い上がりだと思ふ。そうではないと信じる。地区の名前を入れてほしい。

良い例がある。関市で、平成地区が思いのほか大フィーバーした。2、3年前は「関市」と全国に発信して、こんな地区があると。最後は関市も、平成という地区は行政区に今はないが、はっきり全国にあえてピーアールした。だから予想外になった。だから、入れてほしい。もったいない。これが恵那市の活性になる。

■市民5 大正村のハスについて。大正ロマン館の下にハス園があり、150 鉢以上ある。これは、司葉子さんが花の町にしようということで、京都のハスの研究所にハスを譲ってもらいに行ったら、ハスのことは浜松の富永さんのところに行ってくれということで、司葉子さんと大正村の関係者が富永さんのところに行き、最初は 2 鉢だったが、4 年前に 120 鉢いただいた。それで順に増やして、補充していただいたが、現在は 140 種類余で、もうすぐ 150 種類になる。今年富永さんが病気になり、ハスの世話ができないから大正村に譲るので持って行ってほしいと言われた。本当に責任が持てるか心配したが、富永さんからそんな有り難い言葉をいただいたなら、こちらも責任を持たないといけないと思った。でも、実際ハスの世話をしているのは本当にごく一部で、誰かがやるで良いだろうというふうで僕もやっているが、もう 1 人、岩村から来ている安藤さんという方が熱心にやっている。僕も百姓仕事が忙しくて手が回っていないが、その態勢を、富永さんからそう言われたというのはものすごく光栄なことなので、もっと大正村のハスについて皆さんに知っていただくようにしないといけないと思って、富永さんに、いただいたハスのいわれを教えてくださいとお願いしたら、日本にも 3 カ所にしかないような珍しいものがあるというようなことをいろいろ教えてもらった。富永さんからハスの説明を書いたものをいただいた。ハスの看板を作りたいが大正村はお金がないということで言い出しにくいですが、どういう風にしてハス園が出来たのかの説明の看板を作ったり、ハスのいわれを鉢に説明できるように今やっているが、そういうものを作って、本当に発信していかなければならない。

応援する態勢を作ってほしい。とても一部の者ではできない。安藤さんが富永さんに手紙を書いた。人がいないのでNPO法人でやっていきたいと書いた。そうしたら富永さんが大変怒って、私は司葉子さんの世話で大正村にハスを寄贈したのにNPO法人にやってもらうことでは困る、それなら全部返してほしいと。僕は、そのとき、大正村としていた

だいたいでNPO法人でやるつもりはないとはっきり言って、富永さんの怒りはある程度は静まった。それ以後、心配していただき、もしハスが枯れたら補充しますと言ってくれている。

それだけのものをいただいたので最低限の付き合いはしなければならないと思ってきた。でも、富永さんからは、「大正村には礼儀がない」とはっきり言われた。大正村の事務局、理事長も礼儀を尽くす態度を示さないといけない。何とか皆さんで盛り上げてほしい。

もう一つ。司葉子さんの世話で大正村にハス園が出来た。司葉子さんの名前のハスと竹下恵子さんの名前の付くハスを開発してくださいとお願いした。そういう日本に一つしかないハスができれば宣伝にもなる。そういう意味でも協力をお願いします。

■振興事務所長 総括する。まちを元気にするというのを皆さん本当に一生懸命考えてくれている。観光客との対話をしてまちの人も元気になる。汗を出す。ボランティアを一人ずつ、皆さんにもやっていただく。市の職員もまだ足りないという御意見。私も皆さんと一緒に頑張らないといけないと思っている。おはようございますというあいさつが大事。大きな声であいさつすれば元気の源になる。「恵那市明智町」と「明智町」まで入れた方が全国へのピーアールにプラスになる。ハス園、みんなで協力しようということ。皆さんと一緒に頑張っていければ。

■市長 答えられるところだけ答える。市民4さんからいただいた名前の件。全然気づかなかった。これからの分はちゃんと明智町、岩村町と出す。

市民3さんからいただいた、引き続きということ。終わった後の方が大事だ。「半分、青い。」もそうだが、この後どうするんだという議論が既に始まっている。応援したい。「半分、青い。」も「麒麟がくる」も、多くの人が生きているうちで一生に一度あるかないかだ。そのときに何ができるか。通り過ぎるのを待つのか、それを良しとして楽しむのか。皆さんにかかっている。連続テレビ小説と大河ドラマがいつぺんに来るとするのは二度とないのでできる限りのことをやりたい。

副支部長さんから提案があったピーアールに努めるということ。皆さんにお願いしたい。若い人はSNS、ツイッターやインスタで良いので、どんどん情報を出してほしい。無料でできる。でもすごく明智が盛り上がっているということになると思う。すごく面白かった例が、「平成最後の昭和の日に大正村で明治R1を飲む」というのが流行った。明治乳業が出しているR1、令和元年だからということ。その写真が結構出た。遊んでいるが、楽しんでいる。そのために明智の大正村に行かなくちゃという人がいた。そういうこともあったので、SNSは無料だがムーブメントが起きる可能性があるのでやってほしい。

市民1さんからの話。人とのふれあい。観光地もしくは交流人口と関係人口の差は、人のつながりがあるかどうか。人とのコミュニケーションがあつて、人が好きで、あの人が声をかけてくれたからもう一度行こうというのは関係人口。その関係が濃密になればなる

ほど、もっと行こう、今度は友だちを連れて行こう、いつかは住もうということになる。ボランティアをしながら観光客に声をかけてというのは大変重要な取り組みだ。

2. 明智小・明智中・恵那南高校の「浪漫学園」の活動

■恵那南高校同窓会会長 昨年から会長をしている。ちょうど1年になる。長く学校と離れていたの、昔とは変わってきたところがある。浪漫学園、地域サポーター、それと現状も含めて話す。R1は知らなかったが、ハスは4鉢植えている。

浪漫学園は大正ロマンから来ているのかなと思うが。その前に学校の現状。最近評判がよく、恵那市役所へも入れるということで人気が出てきている。平成27年、28年が定員120名で、それぞれに57名。平成28年は74名入っている。29年、30年は定員が80名。29年は60名、30年は62名入校している。平成31年は定員60名。過去の半分になった。60名入校。試験は73、4名。落ちた人が13名ほどあったということだ。

活動は、恵那川上屋とコラボで、笠置や長島の栗園を生徒が手伝いに行っており、栗のお菓子を、6次産業で販売まで含めてやっている。3年終わり、次の3年ということで調印式に出席した。

学校の横断幕とのぼり旗は県で用意してもらえる。近日中にあちこちに立つと思う。明智駅前には横断幕ができると聞いている。校長は今一生懸命やっており、恵那の街の方にも恵那南の横断幕をつけたいということで、場所の選定などで今動いている。

浪漫学園について。恵那南高校というのをネットで見ると、こういうのが出てくる。「地域の小中高、特別支援学校がともに学び合うことで地域を取り込んだ活動で生徒の資質を高める取り組み。平成19年度より始まりました」。その中で具体的に活動としては、恵那南高校の3年生の小学校の読み聞かせの活動。あいさつ運動は小中高合同で。明智は都合の良いことに小中高が1カ所にある。こういった学校は全国でも珍しい。それで浪漫学園もしやすくなっている。水質調査、土雛作り。このような浪漫学園を平成19年から取り入れて行なっている。

地域ボランティア活動、地域で一緒になってやっている。地域サポーターの募集というのがある。ボランティアで、光秀の産湯の井戸の清掃活動や、白鷹城に行くところの山道の整備。そういった地域と一緒にやっているところがあるので、地域の皆さんにも応援していただくということで、この機会に申し込んでほしい。地域サポーターの申し込み用紙は受付にある。どういふことをするのがそれに書いてある。プラスバンドの発表会などを見に行ってくださいことも地域サポーターになる。去年、私は土岐のグラウンドまで野球を見に行ったが、結構上手だ。そういう応援も地域サポーターになる。

また、駅前町の皆さんの協力で、勉強する場所を作っていただくことになり、動き出している。その先生をするのもサポーターになる。誰でもできるわけではない。学校の先生

の経験者などはお力添えいただきたい。駅前の公民館を借りて夕方に恵那南高校の生徒がバスを待つ間、明知鉄道を待つ間に勉強する。現在、大学入試の子などは学校で残ってそういう勉強を教えてもらいながらやっているのです、そういう人は間違いなくそういうところに行くと思う。

水曜日は市役所も早帰りだ。学校も県からの通達で早く帰るよというところが先生にきているが、なかなか帰れないようだ。生徒数が少ない割に先生の面倒見が良いので、地域の人にお手伝いしていただきたいということを知っている。

昨日の新聞の折り込みに入っていたが、恵那市の少年の主張大会、恵那南高校の生徒がギターマンドリンを披露するのを見に行くというのも地域サポーターになる。簡単などころから始めてはどうか。今 35 人登録している。初回会議では、参加数は少なかった。始まったばかりなので分かりづらい点があるかと思う。これを機会に少しでも恵那南高校に気持ちを向けていただくと有り難い。私も去年までは知らなかった。1 年やっていると分かってきた。「恵那南高校は生徒数の少ない小規模な高校であり、恵那南高校の学校運営には今後も恵那市も住民の皆さんも応援をいただきたい」とこのように思っている。

■市民6 駅前に住んでいる。恵那南高校同窓会会長へ応援エールを送りたい。明智小・中学校が大正村クロスカントリーからおんさい祭り、秋にはもみじ祭りと、かなり中学生から高校生まで参加して一緒になって歴史や文化を学んでくれている。高校生が 1 学年 60 人の寂しい学校だが、岩村高校、明智商業と一緒にしてもこんな風だとはどういうことか。無くなってしまわないか心配する。何とかみんなでサポートして応援しよう。2、3 日前に調べたら、今年 64 人卒業者がいて、進学が 17 人、四大が 4 人、うち国公立が 1 人。就職が 47 人、うち市内が 20 人。50%が町内就職している。明智セラミックでも喜んでいただいている。地元の子が来ると離職者が少ない。よそから来る人はすぐ辞めると。それで、褒美ではないが、バスケットのために 10 万円、今年の春にいただいた。一般のチームを作りなさいとまた 10 万円いただき、20 万円いただいた。そのぐらい地元の若い者が必要だということだ。企業も目を向けてくれている。地域に生徒が貢献すればお返しがある。

先日、明智中学校の校長先生が、中学校で話をしてくれと言うので、2 時間授業をした。1 時間は座学をやって、1 時間は町を歩こうと。八王子神社の石がどういう並べ方がしてあり、その裏に名前が書いてある。これは親戚の名前だろうから見てご覧という、結構知っている人の名があつて、その人が寄付された。それでこの町この神社が守られているということを説明した。そうすると、そこで子どもと大人と一緒に歴史を学ぶことによって、地域の愛着心が湧く。関係人口が増え、明智に戻るとか寄付しようということになってくると思う。ぜひ恵那南高校同窓会会長のサポーターになっていきたい。

駅前町の区長には自主学園の提供をしていただきありがとうございました。一緒に歴史

を学んだり地域を学んだり、社会人の先輩や地域（企業）のセラミックの部長や明光化成の重役なりに来てもらい、社会や仕事のことについて教えていただきたいと思っている。

■市民7 吉良見に住んでいる高校1年生です。去年明智中学校を卒業して高校生になった。中学校の頃から地元の活動にたくさんかかわってきた。活動の3年間通して、地元に対する思いなどはたくさん思っている。明智中出身の生徒も明智の恵那南高校だけではなくさまざまな地域の高校に通っている。そうすると、なかなか地元のイベントやボランティア活動に参加できる機会が少ない。中学校でこういう活動を積み重ねてきたので、地元で自分たちで自主的に高校生になっても動きたいという思いはあるが、活動できる場所や機会を与えてもらえることがあまりない。そういう機会を高校生にもたくさんもらいたい。こういう浪漫学園などの活動をやってきているからこそ地元に対する思いは明智中学校出身の子たちはたくさん持っていると思う。明智中学校と恵那南高校だけではなく、地元の高校生というくくりを広めて、もっと若い人たちにボランティア活動に参加する機会を与えてほしい。

・自由意見交換

■市民4 防災の件で。5月30日に三学のまち講座で危機管理課長の恵那市の防災状況について講演があった。いざ事が起こったときにと。今日朝7時のニュースで明日は大雨注意報から警報に変わる可能性が高いと言っていたが、災害はいつ来るか分からない。自助は自分で避難計画、公助は自治体が予算も時間もかかる。個人的には、共助の部分。危機管理課長も盛んにこの部分を言われていた。共助は自治組織含めてだ。新年度なので地区の防災体制、防災の組織図が、振興事務所を通して市役所に上がるはずだと。

テキストの中に、明智と三郷が13地区中の好事例だと。世帯数に対して申告数の枚数が多いと。そうしたら、私より先輩の大井の方が、そんなのは見たことがないと質問した。いつからやっているのかと。私も、自分が町内の役をしたときは作って出したことがある。あの中には役割があり、いろいろな役割を自覚しているか。その役で具体的に何をやら良いか、本当に知っているか。セレモニーに終わっていないか。

9月の避難訓練も含めて。お願いしたいのは、共助の部分の、実際は自助、公助、共助の3つが一緒にならないと早く対応できないはずで、肝心の共助が一番大きなウエイトを占めるはずなので、共助が迅速に行ったところは早く復興しているという例がいくらかあるので、ぜひ検証をお願いしたい。どの程度まで徹底されているか。危機管理課長からは、方法論を工夫して、やりたいとおっしゃっていただいた。

■市民8 昨今のニュースで高齢者の悲惨な事故が非常に目立つ。都会では免許の返納者も進んでいる。恵那地域では車がなければ生活ができない。そこで、提案だが場所によっ

ではコミュニティーバスもあると聞くが、それも使い勝手が悪いと聞く。知人から、高齢者に対して現実的にタクシー券、2万円とか3万円とか支給してもらえないか、本日の懇談会で伝えてほしいと言われた。僕もそう感じる。

市長お礼のあいさつ

■市長 浪漫学園の件。私も含め、恵那南高校の存続が危ういということからスタートし、恵那市としてもいろいろな取り組みがスタートしている。6次産業化もそうだし、通学費の一部補助もそう。あとは英語教育。その前から浪漫学園については取り組みをされている。小中高と一体的な縦のつながりをもっと持っていきこうということだ。これについては大変大事だと思っている。先ほど会社の方が、地元で働いてくれる人をと、最後はそこにつながると思うが、そのためにも何とか恵那南高校の存続を第一として考えていきたい。そのためには地元明智を含め周辺の皆さんの支援は絶対に必要だ。そこは私からもくれぐれもお願いしたい。

市民7さんから、高校生になって活動できる場所をとという話。ありがとうございます。すごく頑張っているから、明智、大正村の皆さんを含めてそんな仕組み、機会を作してほしい。

市民6さんからは応援してくれということ。市としても一生懸命やる。地元の応援もお願いしたい。

市民4さんから、防災の話。共助のこと。防災会議でも取り上げた。地域できること、もしくは好事例をお互いに学び合う機会を作っていきたい。危機管理課長とともに、動かすように考えていく。

市民8さんからのタクシー券の話。私も公共交通の担当をしていたし、免許返納のこと、もっと言えば高齢者による事故がこのところ頻発していることもある。市としては、交差点での事故を防ぐために、すぐにできることということで、交差点にガードパイプを置くようなことはすぐにスタートするように手配した。危険箇所があれば明智町でも声を上げていただきたい。昨年ブロック塀が倒れて女の子が下敷きになったので、それも早急に対応しようと、考え得るブロック塀はすべて取り壊し、もしくは民間の人のものは補助金の制度を作って壊すようお願いしている。

ただ、車がないと生活できない。何とかこれを防ぐための手立てがないか、公共バスを含めて、タクシーの活用も、ほかの人からも意見をいただいているので、検討する。今の時点ではスタートは切っていない。何とか今年中に検討をスタートしたい。

いろいろな意見をありがとうございました。多くの意見をいただき感謝する。意見を持ち帰り、一つでも前に進めたい。

閉会

■自治連合会会長 市長、副市長、まちづくり企画部長、御苦労さまです。これからも町の者が元気よく暮らすために御指導をお願いします。今日お越しの皆様には貴重な意見をいただきありがとうございます。これで閉会します。

[閉 会]